

# 京都産材

## 地元材の需要



京都府内産材集成材ひなたのサンプル

す。同社のバックは、中芯は加工できる。非住宅物プレカット(杉)3×6判。さらに、100坪程度の加工は、特検KD土台角、杉羽柄ラスをはじめ300坪に国産材活用からフローリング、400坪の受注もあり用と非住宅腰壁、木製家具、建材公共物件が多い。金物にも取り組に至るまで京都府内産はテックワンP3プラ材を活用した製品を常備している。14畳スペースを在庫している。なのトラス構法に対応できる。

京都府内、集成材は注文に応じて製造している。お、集成材は注文に応じて製造している。お、集成材は注文に応じて製造している。

工、集成材、京都府内産材は徐々に増えている。同社は、集成材、ム市、福岡國久社長)のプレカット子会社である。

# 福岡分を2

## パネル、プレ

福栄(長崎県島原市、福岡國久社長)のプレカット子会社である。

法「F・P・P・P・工店からの受注が多い。法」の加工、島原と福岡 同工法は2016年岡でサイディングプレ 4月にラインを作った。パネル工法のローコスト版や長期優良住宅、ZEHへの対応を5月に3工場合わせ、SDPCは通常、現率が、今月に入り回復 SDPCは通常、現率が必要とす。7月上旬までの計測を必要とするが、同社はクリアランスなどの寸法、規格を自社グループで統一したこと、前計測の異なるプレカットを実現した。島原、福岡工場のライン1シフトで1日4棟分(1棟180枚換算)の供給能力がある。

# 住宅資材全般を販売

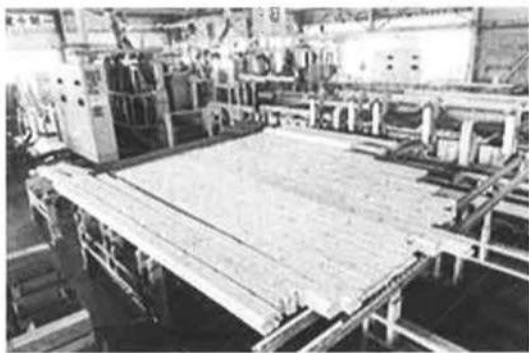
## 構造用材の供給量が増加

### ナカザワ建販

ナカザワ建販(大阪府和泉市、中澤秀紀社長)は、和歌山県内に在来軸組工法や金物工法向けのプレカット工場(第1、2)、大阪府貝塚市にサイディングプレカット工場を所有している。構造材の月間供給量は2工場合わせて平均で9900坪。2018年の年間供給量は11万8500坪(前年比7.0%増)と前年を上回る加工規模だ。同社の特徴は、建材流通業としてのプレカット供給を行っている。営業担当者が多いことから建材を含めた住宅資材全般を販売していることだ。

ナカザワ建販(大阪府和泉市、中澤秀紀社長)は、和歌山県内に在来軸組工法や金物工法向けのプレカット工場(第1、2)、大阪府貝塚市にサイディングプレカット工場を所有している。構造材の月間供給量は2工場合わせて平均で9900坪。2018年の年間供給量は11万8500坪(前年比7.0%増)と前年を上回る加工規模だ。同社の特徴は、建材流通業としてのプレカット供給を行っている。営業担当者が多いことから建材を含めた住宅資材全般を販売していることだ。

また、同社は加工物流機能を強化してお



和歌山県内にある在来軸組プレカット工場

壁パネル、窓系サイディング、ユニット配管、電線ユニットなど幅広い。さらに構造プレカットに利用するADデータを基に、あらゆる住宅設計情報を網羅していき、工務店を整理することで、生産を反映させる。垂壁と

の大型パネル生産パートナー会社に加盟し、さきごろ京都府木津川市で開催した「ナカザワ住宅博」で新築住宅(木造2階建て)の2区画に躯体構成部材「大型パネル」が採用された。



島原工場内の柱加工機

在は受注を止めて外注先を探している。島原(同)は月間の最大加工能力4000坪で、通常は2シフトで、通常は3000坪を除く九州5県で、これ加工している。受注は、19年12月期は80棟の横架材加工機は今年SDPCとのセット操から来年にかけて、加案を行っていく。